

市内中小企業の景況について

第 125 回京都市中小企業経営動向実態調査【結果概要】

～今期企業景気DIは3.6ポイント上昇、来期見通しは2.0ポイント低下～

市内中小企業の経営実態、経営動向などを把握するため、四半期ごとに郵送によるアンケート調査として実施しています「京都市中小企業経営動向実態調査」及び「付帯調査（平成29年の企業経営実績と平成30年の業績見通しについて）」の結果がまとまりましたので、御報告します。

<市内中小企業の景況について（別紙1参照）>

○今期（平成29年10月～12月期）実績

- ・ 今期の企業景気DIは、全産業で3.6ポイント上昇（43.6→47.2）。製造業で3.2ポイント上昇（46.6→49.8）、非製造業は3.8ポイント上昇（40.9→44.7）。
- ・ 業種別企業景気DIは、多くの業種で上昇し、機械が70、化学、金属が60を超える高水準に。

※調査は、前年同期比での「上昇・増加や下降・減少」を問うもの

・ 製造業（上昇：染色，窯業，化学，金属，機械 / 低下：西陣，印刷，その他の製造）

【主な上昇理由】・「半導体製造装置業界の景気回復」（南区／金属）

・「直接販売の強化」（中京区／窯業）

【主な低下理由】・「仕入れ単価の上昇」（上京区／西陣）

・「受注単価が下げ止まらない」（下京区／印刷）

・ 非製造業（上昇：卸売，小売，情報通信，建設 / 低下：飲食・宿泊，サービス）

【主な上昇理由】・「営業による大口受注獲得」（山科区／卸売）

・「売上・利益の増加」（左京区／小売）

【主な低下理由】・「人手不足のためインバウンドの好況に対応できない」（中京区／飲食・宿泊）

・「人件費等が増加し、利益が減少」（左京区／サービス）

・ 観光関連は、0.3ポイント上昇。

○来期（平成30年1月～3月期）見通し

- ・ 来期の企業景気DIは、全産業で2.0ポイント低下（47.2→45.2）。製造業で0.9ポイント低下（49.8→48.9）、非製造業で3.0ポイント低下（44.7→41.7）の見込み。
- ・ 先行きについては、機械，窯業，卸売などで低下の見込み。

・ 製造業（上昇：西陣，染色，印刷，その他の製造 / 低下：窯業，化学，金属，機械）

【主な上昇理由】・「年初に大口受注の見込み」（西京区／印刷）

・「新規取引先拡大」（伏見区／その他の製造）

【主な低下理由】・「取引先の減少」（東山区／窯業）

・「受注予定の先送り」（南区／機械）

・ 非製造業（上昇：情報通信，サービス / 低下：卸売，小売，建設）

※ 飲食・宿泊は、前期と同水準

【主な低下理由】・「輸入価格の高騰」（北区／卸売）

・「人手不足」（中京区／建設）

・ 観光関連は、3.8ポイント上昇の見込み。

(参考) 1 調査対象企業数800社。うち480社が回答（回答率 60.0%）

$$2 \left[\text{企業景気DI} = \frac{(\text{上昇, 増加と回答した企業割合}) - (\text{低下, 減少と回答した企業割合})}{2} + 50 \right]$$

＜経営上の不安要素＞

- ・ 経営上の不安要素は、上位から「人材育成」が48.5%、「売上不振」が40.3%、「競争激化」及び「人手不足」が32.5%、「人件費増加」が22.6%と続き、とりわけ「人手不足」は3.6ポイント増え、過去最高水準となった。
- ・ 業種別にみると、「人材育成」を挙げる業種は、印刷（※1）、化学、金属、機械、その他の製造、小売（※1）、情報通信、飲食・宿泊、建設の9業種、「売上不振」を挙げる業種は、西陣（※2）、染色、窯業、卸売の4業種。サービスでは「競争激化」、観光関連では「人材育成」が最も多くなっている。

※1 他に「売上不振」が同数。 ※2 他に「原材料価格上昇」が同数。

＜付帯調査：平成29年の企業経営実績と平成30年の業績見通しについて（別紙2参照）＞

A 平成29年の業績は平成28年と比較していかがか。

～「前年並み」が41.3%と最多～

- ・ 「悪かった」が24.2%、「良かった」が23.3%と続く。「良かった」が1.5ポイント上昇する一方、「悪かった」が2.6ポイント、「非常に悪かった」が2.3ポイント低下。

B 平成30年の業績見通しは平成29年の実績と比較していかがか。

～「今年並み」が過半数を占め最多、「悪くなる」が7.9ポイント低下～

- ・ 「今年並み」が54.6%、「良くなる」が19.4%、「悪くなる」が18.5%と続く。「良くなる」が1.9ポイント上昇する一方で、「悪くなる」が7.9ポイント低下。

C 平成29年の業績に影響を与えた要因は（複数回答可）。

～プラス要因では「営業努力」が最多、「国内景気」が大幅に上昇～

- ・ プラス要因は「営業努力」が62.5%、「新商品・新技術の開発」が24.7%、「国内景気」が13.0ポイント増の23.4%と続く。マイナス要因は「他社との競争」が37.1%で最多、「国内景気」が23.5%と続く。

D 平成30年の業績見通しに影響を与えると予想される要因は（複数回答可）。

～「新事業の展開」、「新商品・新技術の開発」、「地元景気」をプラス要因と予想する企業が増加～

- ・ プラス要因は「営業努力」が55.1%、「新商品・新技術の開発」が27.6%と続く。平成29年実績との比較では「新事業の展開」が3.9ポイント増、「新商品・新技術の開発」と「地元景気」が2.9ポイント増、「国内景気」が2.5ポイント増と続く。一方、マイナス要因は「他社との競争」が36.3%で最多。

E Dで選択した平成30年の業績見通しに影響を与えると予想される要因のうち、最も影響の大きい要因は。

～最も影響が大きいプラス要因は「営業努力」、マイナス要因は「他社との競争」～

- ・ プラス要因は「営業努力」が15.2%で最多、「国内景気」が14.4%と続く。マイナス要因は「他社との競争」が15.2%で最多、「雇用情勢」が14.7%で続く。

F 平成29年及び平成30年の賃金水準について。

～賃金水準は平成29年、平成30年ともに、「上げた」「上げる予定」が最多～

- ・ 平成29年の賃金水準は「上げた」が61.9%と高水準を維持。
- ・ 平成30年の賃金水準は「上げる予定」が6.2ポイント増の52.7%。

G 平成29年及び平成30年の賃金水準の引上げ内容について。

～平成29年、平成30年ともに、「ベースアップ」が最多～

- ・ 平成29年は「ベースアップ」が4.3ポイント増の37.9%で最多。
- ・ 平成30年も「ベースアップ」が4.6ポイント増の36.9%で最多。

H 今後、拡充及び縮小する部門は。

～拡充は「営業部門」がトップ、縮小は「特になし」が77.2%と圧倒的～

- ・ 拡充する部門は「営業部門」が50.2%で最多、「企画・開発部門」が31.3%と続く。縮小する部門は「特になし」が77.2%と圧倒的で、「事務部門」が9.5%と続く。